

華能国際電力股份有限公司との技術協力に関する契約の締結について

当社は、本日(10月20日)、中国の発電会社である華能国際電力^{グループ}股份有限公司※1(本社:北京市、代表者:曹培奎[ツォー・ペーシ]董事長)との間で、超超臨界圧(USC)石炭火力発電所※2の運用・保守等に関する技術協力契約を締結しました。

本取り組みは、昨年、華能集团公司と締結した石炭火力発電所のリノベーション事業等に関する覚書に基づく具体的な展開の1つであり、当社にとって、中国における初めてのビジネススペースの契約となります。

当社は、今後も継続的に華能集团公司およびその傘下である華能国際電力^{グループ}股份有限公司との技術協力を進めていくことで、中国国内における石炭火力発電所の環境問題改善に貢献していきたいと考えています。

※1華能国際電力^{グループ}股份有限公司は、華能集团公司の持株発電会社であり、華能集团公司傘下の電力有限公司の中で、最大の発電設備を所有している。

※2石炭を燃焼させて作る蒸気を、従来よりもさらに高温・高圧にして発電する方式であり、熱効率が高いため、従来に比べて燃料使用量が少なく、二酸化炭素排出量の削減を図ることができる。

1. 契約締結に至る経緯

○ 当社は、華能集团公司から、当社とビジネススペースで継続的な技術交流を進めたいとの提案を受け、平成20年9月12日に、中国における石炭火力発電所のリノベーション事業等に関する覚書を締結しました。

[\(平成20年9月12日 お知らせ済み\[PDF:289KB\]\)](#)

○ その後、本覚書に基づき、両社の超超臨界圧石炭火力発電所(当社:三隅発電所、華能国際電力^{グループ}股份有限公司:玉環(ギョッカ)発電所)を相互に訪問し、具体的な技術協力の進め方などについて意見交換を実施してきました。

○ 華能集团公司のニーズを踏まえつつ、具体的な技術協力の内容等について、華能国際電力^{グループ}股份有限公司と協議を行ってきた結果、このたび、技術協力に関する本契約を交わしました。

2. 技術協力契約の概要

(1)以下の項目に係る技術資料の作成および提供

- ・ USC発電所のトラブル事例とその対策について
- ・ USC発電所の信頼度維持・向上に関する工夫について
- ・ USC発電所の点検作業要領について 他

(2)技術交流

上記技術協力項目を主として、契約期間中に4回程度の情報交換会を開催

(3)契約期間

2012年3月末目途(契約締結後約2年半)

【添付資料】

 [華能国際電力^{グループ}股份有限公司の概要\[PDF:135KB\]](#)

以上

華能国際電力股份有限公司の概要

華能国際電力股份有限公司は1994年に設立された、華能集团公司の持株発電会社。華能集团公司の傘下の電力有限公司の中で、最大の発電設備を所有しており、代表的な発電所として、中国初の単機出力100万kWの超超臨界圧（USC）石炭火力発電所である玉環発電所（100万kW×4機）が挙げられる。

1. 会社概要

- (1) 発電設備 4,094万kW（2008年度末時点）
 (2) 発電電力量 1,846億kWh（2008年度実績）

2. 発電設備

- ：華能国際電力股份有限公司傘下の火力発電所（27箇所）



地図出典：外務省ホームページ

3. 玉環発電所の概要

ユニット	営業運転開始年月	出力
1号機	2006年11月	各100万kW
2号機	2006年12月	
3号機	2007年11月	
4号機	2007年11月	

(参考：三隅発電所の概要)

ユニット	営業運転開始年月	出力
1号機	1998年6月	100万kW